

首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会(第4回)

議事要旨

日時: 2022年5月13日(金) 13:30~15:00

場所: 高速湾岸線 荒川湾岸橋

出席: 委員長 前川 宏一(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授)

委員 石田 哲也(東京大学大学院工学系研究科 教授)

白戸 真大(国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長)

村越 潤(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)

オブザーバー 森本 励(日本高速道路保有・債務返済機構 理事)

(砂金 伸治(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)、

小根山 裕之(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)は所用のため欠席)

議事:

1. 荒川湾岸橋 現場視察

(主な意見)

- ・ 鋼橋の代表事例である荒川湾岸橋は大規模な橋梁であるが、厳しい環境下で長期間にわたり利用されてきたのは、完成から現在に至るまで適切に維持管理されてきた賜物ではないか。
- ・ 橋全体にわたり防食の劣化が広がっている。一部では広範囲で塗膜がはく落していることや腐食により板厚の減少、部材の破断など損傷の程度が大きくなっていることに加え、荒川湾岸橋の置かれている環境からすると他の橋梁でも同様の状態に至る可能性が高い。
- ・ これまでどおりの部分的な補修を繰り返すことは、橋全体として更なる劣化の進行が避けられず、コストと時間を要することから、抜本的な防食対策等を行うことで長寿命化を目指すべきではないか。
- ・ 抜本的な対策にあたっては、単に元の仕様に戻すのではなく、コストや維持管理性を意識しながら、部位ごとにメリハリのある戦略的な対策を講じることを検討してはどうか。例えば、耐久性に優れた材料の使用や腐食に繋がる可能性のある水の溜まりやすい部位の改良なども考えられるのではないか。

以上